

研究分野

■人間社会環境学系

私たちがその中で生きる環境は、自然に根源的に支えられながら、生命が再生産される生態系という側面と、人間の活動によって築き上げられてきた人間社会という二つの側面を有しています。本学部では後者を研究対象とする諸学を人間社会環境学系に

編成し、環境政策学、環境経済学、環境法学、環境社会学、環境計画学、環境倫理学、環境哲学等の諸学をカバーしています。主な研究には次のようなものがあります。



中山間地域における農業の現状についての現地学習



世界遺産（小笠原諸島）における外来生物対策とエコツーリズムの調査



街並み点検ワークショップ

■環境保全設計学系

自然環境の変動や人為的活動に伴う環境問題を、物理学的、化学的、生物学および情報科学的アプローチによって多元的かつ複合的に研究・解析していま

す。環境保全に関わる基本技術と応用技術の開発および設計を行って課題解決へつなげています。



河川水中の化学物質の分析のための採水



河川の汚濁状況を調べるための魚の血中タンパクの採集



沖縄の山中で越境大気の捕集装置をセット

地球表層圏における環境変動と保全に関する物理学的アプローチ

火山活動や地震、海流・海洋の変化、河川やデルタの変動、大気組成や気温の変化は生物生存に直接的な影響を与えます。これら事象の発生と遷移を観測・把握し、その仕組みを解明すると同時に計算機シミュレーション等の手法による将来予測を行って、環境改善に向けた実現可能な提言を行っています。

環境中の化学物質が生体に及ぼす影響の解明に関する化学的、生物学的アプローチ

海洋・河川・土壌・地表環境は、そこに生育・生息するあらゆる生物との相互作用によって化学的にも変化しています。地球規模の環境変動や人為的活動による環境変化は、生物生存に直接的な影響を与えます。温度環境、様々な化学物質、環境中の放射線や放射性物質等の環境因子を観測・解析して環境動態および変動によるストレスを解明し、生物への影響を的確に評価して環境保全と負荷低減に向けた実現可能な提言を行っています。

生物多様性・生態系の変動と保全に関する研究

生存環境の変化に伴って絶滅を危惧される生物種の増加が指摘されています。指標生物の動態解析や生育・生息域調査等を踏まえて、生態系の保全に向けた実現可能な提言を行っています。

循環型社会を創生する技術の開発に関する研究

循環型社会の創生には、既に悪化した自然環境の復元と、環境負荷の少ない環境技術の創造が必要です。植物や微生物の機能を用いた環境修復、地下水・土壌汚染の修復に関する研究から、自然環境の復元手法について提言を行っています。また、廃棄物の適切な処理処分・資源回収、排水などに含まれる汚染化学物質の回収・再資源化、都市の新しい交通・景観・音景観の評価、環境にやさしい新しい高分子材料に関する研究から、低環境負荷の手法について提言を行っています。

野外生物調査というフィールドワークの講義の様子



人間社会環境学系 教員紹介

氏 名	専門分野	主な担当科目	主な研究内容
梅津千恵子	環境資源経済学	環境経済学Ⅱ	発展途上国の農業生産と資源利用にまつわる環境問題の解決策について地域のレジリエンスという視点から研究しています。
菅原 潤	環境哲学	環境哲学Ⅰ	風景を軸として人間と自然、東洋と西洋の関わり方を哲学的、思想的に考察します。
戸田 清	環境社会学	環境社会学Ⅰ	環境問題と南北問題の関連、脱原発その他の市民運動、〈環境正義〉等を研究。
西久保裕彦	環境法・環境政策	環境法Ⅰ	環境問題の解決に向けて、環境省等での勤務経験を生かしつつ、理論と実務が融合する形での解決策を考えます。
早瀬隆司	環境政策	環境政策Ⅰ	多様な利害が交錯し、しかも不確かさが大きくなりつつある環境問題と如何につきあっていくかを考えます。
福島邦夫	民俗学	環境民俗学	かつて自然と一体化して営まれてきた日本人の生活がどうあったか、そして今後どうあるべきかを考察します。また、生活文化の総合されたものとして、民俗宗教を考察しています。
吉田謙太郎	環境経済学	環境経済学Ⅰ	環境政策の経済評価などを研究しています。森林、水、生物多様性、農業と食品安全性、都市環境、エコツーリズムなど国内外の諸問題が対象です。
吉田雅章	環境倫理思想	環境倫理学	人と自然とのかかわり方としての文化という観点からの人間と環境をめぐる基礎的研究をしています。
黒田 暁	環境社会学・地域社会学	環境地域社会学	自然環境と人々の営みや社会とが、相互変化の関係にあることを社会的な視点とフィールドワーク（質的調査）の手法から解明していきます。
小林 寛	民法・環境法	環境法Ⅱ	環境汚染（主に土壌汚染と海洋汚染）を防止するための法制度及び環境汚染が生じた場合の責任論について研究（日米比較研究を含む）しています。
中村 修	環境経済学・循環型社会	環境マネジメント論	生ごみ、尿尿などが地域で循環利用されるための社会づくりをおこなっています。また、持続的な経済社会のための理論研究をおこなっています。
深見 聡	観光学・地域づくり論	環境科学特別講義B, C, D	環境教育研究マネジメントセンター（学部内施設）の業務に専任として携わっています。ツーリズムと地域社会の関わりについて、フィールドワークや実践とおした研究をしています。
保坂 稔	環境社会学・社会調査論	社会調査論Ⅰ	社会学や社会心理学の観点から、環境保護意識の計量的な分析や、緑の党の事例研究をしています。
堀江哲也	環境経済学	環境・資源経済学Ⅱ	様々な環境問題を解決するための効率的な解決策を、経済学の視点より研究します。特に歴史、理論、実証、政策の4つの柱を大切にしています。
松田雅子	英文学・英語教育	言語コミュニケーション	現代のカナダ・イギリス文学研究と環境科学のための英語教育研究をしています。
和達容子	EU政治論・環境政治学	環境国際関係論	国家利害を乗り越え、国境を越えて生じる問題を如何に取り組むかを研究しています。
渡辺貴史	地域計画学	地域計画論	都市や農村部に存在する緑地やランドスケープの保全・再生に関わる研究を行っています。

環境保全設計学系 教員紹介

氏名	専門分野	主な担当科目	主な研究内容
井口恵一朗	保全生態学	生態学Ⅱ	魚類を含む水圏生態系を主たる対象として、生物多様性の保全に資する研究
岡田二郎	動物生理学	環境生理学	無脊椎動物における物理化学環境の受容と適応的行動発現の神経機構、無脊椎動物の各種行動に対する環境化学物質の影響
北村美江	植物機能学	植物機能学	植物特有の機能を用いた環境修復と環境負荷を減らす有用物質の生産、および環境ストレスに対する植物の応答の解明
田井村明博	適応生理学	適応生理学	暑熱・寒冷などの環境ストレスによるヒトの生体反応（特に体温調節機能）解析と温度適応に関する研究
高尾雄二	環境分析化学	分析化学	環境中の有害有機化合物類の分析手法の開発と環境動態解明
高辻俊宏	放射線生物物理学	環境放射能論	放射線の生物作用の物理的な枠組みによる検討、原爆や原子炉事故あるいは天然に起因する環境中の放射線や放射性物質の動態の解明
中川 啓	環境地下水学	衛生工学	地下環境中における環境負荷物質の動態解析、地下水・土壌汚染の修復に関する研究
中西こずえ	植物生態学	生態学Ⅰ	蘚苔類植生を対象とした地域のフロラおよび植生多様性、群落の種多様性の研究
西山雅也	土壌圏科学	生物無機化学	土壌圏における微生物および生物化学反応の解析と制御・利用
宮西隆幸	分子生理学	分子生理学	細胞外環境情報に対する動物細胞組織の分子生命応答
武藤鉄司	地質学・地形ダイナミクス	地圏水圏環境学	海水準変動のもとでの河川デルタ堆積系の進化と地形地層形成ダイナミクス
山下樹三裕	環境毒性学	環境毒性学	内分泌攪乱物質の生体影響評価およびストレス応答など中枢神経機能への薬理的アプローチ
朝倉 宏	廃棄物工学	環境制御工学	廃棄物埋立地の早期安定化技術・環境汚染防止技術開発、資源物の回収技術開発に関する研究
飯間雅文	藻類学	植物自然史	緑藻アオサ目植物の種分化・環境指標に関する研究や、絶滅危惧淡水紅藻の保全に関する研究
馬越孝道	地震・火山学	地震・火山学	地震発生の仕組み、地震活動の地域性、火山噴火、地震、火山災害と防災について研究
河本和明	大気物理学	大気環境学	雲や雨やエアロゾルといった大気粒子の特性やその相互作用の衛星観測研究
杉山和一	都市計画	都市設計学	斜面市街地における居住環境の分析・評価と改善策の提案、都市交通計画に関する代替案の作成と分析・評価
富塚 明	環境物理学	環境シミュレーション	自然界の複雑な現象や地球環境を理解するために計算機シミュレーションを用いたアプローチ
長江真樹	環境内分泌学	環境内分泌学	魚類のバイオマーカーを用いた環境ホルモンの生体影響評価に関する研究、性ホルモンおよび環境ホルモンの生体内輸送に関する研究
仲山英樹	環境生物工学	基礎化学B	環境汚染化学物質の再資源化に資する微生物や植物の生物機能を活用したメタルバイオ技術とバイオリファイナリーに関する基盤研究
山口典之	動物生態学	動物自然史	衛星追跡データを利用した渡り行動研究、島嶼個体群を対象にした進化生態学研究